

地球の
「いきいき」の
ために

空容器問題への取り組み

リデュース、リユース、リサイクルの3Rにリフューズを加えた4Rに取り組んでいます。

4Rの推進による空容器問題への対応

空容器の発生回避に向けて

宝酒造では、焼酎や清酒、チューハイ、本みりんなどを製造し、ガラスびんやペットボトル、アルミ缶、紙パックなどさまざまな容器に充填して販売しています。ところが、これらの商品を販売し中身が消費された後に発生する空容器は、社会に大きな環境負荷を与えています。

このため、当社ではこの空容器の問題に対処するため、リデュース (Reduce: 減量化)、リユース (Reuse: 再使用)、リサイクル (Recycle: 再資源化) の3Rにリフューズ (Refuse: 発生回避) を加えた4Rの取り組みを進めています。


リフューズとは、余分なものを買わずに必要な物だけを買うことにより、ごみを減らす活動です。「はかり売り」は、余分な容器を購入せず必要な分だけ中身を買うという意味でリフューズにあたります。

3R+R

Reduce
(減量化)
Reuse
(再使用)
Recycle
(再資源化)
Refuse
(発生回避)



 D: 環境に配慮した容器包装

 2: 720mlリターナブルびんの推移

はかり売り

環境配慮型商品の開発

宝酒造では、「環境配慮型商品の開発」を継続的に進めています。ISO14001の目標にも掲げて商品改良や開発を行っており、2013年度は極上く宝焼酎25°900mlのパウチパック採用など計10件の環境配慮型商品の開発や改良を行いました。

2013年度環境配慮型商品の開発・改良事例

- 極上く宝焼酎25°900mlにパウチパック採用
- 宝焼酎25°900mlにパウチパック採用
- 南高梅のおいしい梅酒900mlにパウチパック採用
- 本格芋焼酎「黒甕」720mlビンの軽量化

 3: 環境に配慮した商品開発のための指針

 4: グリーン調達・4Rガイドライン

焼酎のはかり売りの展開

宝酒造独自の活動として、焼酎のはかり売りを展開しており、「はかり売り」実施店の新規開拓についてもISO14001の目標に掲げ、焼酎のはかり売りの拡大に取り組んでいます。

お客様は家庭にあるペットボトルなどの空容器を販売店に持参し、宝酒造は1kl や200 l の専用タンクで焼酎を工場から販売店に直送します。販売店ではその容器にお客様が必要な分だけ詰めて購入します。

「はかり売り」は、資源の節約や廃棄物の削減を実現するために人手を使う販売方法であり、消費者、販売店、メーカーの信頼関係をベースにお互いが協働することで成り立っています。

現在は全国で約160店舗にご協力いただき、1998年の開始以来2014年3月までに、2.7 l ペットボトル換算で約752万本、段ボール約188万枚を節約することができました。

宝酒造「エコの学校」の開催

宝酒造では、容器の4Rについて親子で楽しく学べる「エコの学校」を2013年8月2日・3日の両日、京エコロジーセンター(京都市)にて実施しました。

両日あわせて約60名の親子が参加し、ごみ問題の現状や容器の4Rについて学んだ後、お酒の紙パックをリサイクルして紙すき体験やオリジナルうちわを作りました。

この「エコの学校」で、宝酒造は京都市の第11回京都環境賞奨励賞を授賞しました。



ごみ問題についての授業の様子



オリジナルうちわの完成



スマートフォンで、「エコの学校」動画レポートをご覧ください。

<http://www.takarashuzo.co.jp/promo/env/02/>

 E: 宝酒造エコの学校